NY エッセイ 89

中瀬有紀

第90回アカデミー賞授賞式



第90回アカデミー賞授賞式の舞台で歌うミゲルとナタリア・ラフォルカデ

ハリウッド映画製作の頂点で活躍するクリエイターたちが、今年もロサンゼルスのドルビー劇場に集いました。第90回アカデミー賞授賞式は2018年3月4日日曜日東部標準時の夜8時からアメリカン・ブロードキャスティング・カンパニーにより中継され、4千5百万個のスワロフスキー・クリスタルガラスが使用された豪華な舞台と、ハリウッドスターがひしめき合う客席をぬくカメラの台数は20台以上です。そのすべてのカメラに対して全く隙を見せない完璧な中継明かりを設計したのは、ロサンゼルスに拠点を置く照明家ボブ・ディキンソン氏とトラヴィス・ハゲンブック氏の2人でした。

この仕事は本番日から約8カ月さかのぼる2017年の7月に、装置デザインについて話し合う電話会議により開始しました。装置家のデレック・マックレーン氏、演出家のグレン・ウェイス氏、そしてプロデューサーのマイケル・デ・ルカ氏とジェニファー・トッド氏らが参加したその電話会議の議題は、授賞式のコンセプトとデザインの概要です。照明チームの本格始動はその約5カ月後、同年12月になってからです。装置を決定するための会議に参加し、電飾や装置の素材などの詳細めぐってアート・デパートメントと打ち合わせやテストが繰り返されます。照明図面第一稿が2018年1月に配布され、2月12日から仕込みが始まりました。

ドルビー劇場での約3週間の1週目は機構と装置の仕込みから始まり、照明チームは舞台電飾班と大臣前仕込み班に別れて作業します。2週目は舞台上の仕込みに一日費やし、装置の完成を待つ間、舞台同様に美しくかつ“客席”の雰囲気も必要な客席あかりのフォーカスが始まります。客席あかりはフォーカスに2週間丸々費やしても足りないくらい込み入っている、とハゲンブック氏は話します。2週目の最後には各シーンの装置ごとにムービングライトのフォーカスを行い、3週目のテクニカル・リハーサルに備えます。テクリハではダミーの出演者とともに、本番に起こりうるすべての可能性を稽古します。もちろん誰がオスカーを手にするかは予想できませんが、背景の色を決めるためにプレゼンテーターの衣裳の色を事前に確認するのも稽古の一環です。

今回のアカデミー賞授賞式において、ディキンソン氏とハゲンブック氏の照明デザインが大変優れていた点の一つは、光を反射する素材が多く使用された装置に対するプランです。プログラマー・リーダーのアンディ・オーレイリー氏は、すべてのクローズアップに写り込む光源の処理に長時間費やしたそうです。装置がどれだけ煌めいても、舞台に立つスターが一番美しく映るように計算された明かりは約370ルクス、色温度は約4200ケルビンでした。バックライトはそれより少し高い色温度で、背景から演者を浮き立たせます。テレビで中継される式典の多くがそうであるように、スターのキーライトはカメラのレンズのすぐ上に設置されたフォロースポットです。従って光の質は硬いはずですが、目の高さの押さえとフットライトが顎と鼻の影を薄めキャッチライトの役割を果たし、ソフトな光のベールとなってスターを輝かせました。

第90回アカデミー賞授賞式の中継を終えてハゲンブック氏は、照明デザインのすべてのプロセスの中で本番が一番好きだと話します。このような規模の大きい複雑な制作の一員となることが心からの喜びで、いつの日かオリンピック開会式の照明デザインを手がけるのが夢だそうです。快くお話ししてくださったハゲンブック氏、そして写真提供のご協力をいただいた映画芸術科学アカデミーに心より感謝申し上げます。